巻頭言

「2005年に思う」

Making a Fresh Resolve at the Beginning of 2005

執行役員
開発本部・副本部長
小　竹　　延　和
N. Kotake

開発部門は今，ダントツ商品の開発に加え，来年から始まるエンジンの第３次排出ガス規制，および欧州の第２次騒音規制に対応する車の開発に全力で取り組んでいます．今までに経験したことのない多くの機種を開発中であり，これらの車両を今年の後半から来年にかけて順次市場導入する計画で進めています．ダントツ商品の開発に対してはプロジェクトチームを作り，たくさん出たアイデアの中から先行研究を実施して織り込み項目を絞り開発ステップに進めていますが，試作車の品質確認の中で信頼性も含めてしっかりと作り込んでいく必要があります．開発はもちろん，工場での量産準備，海外生産の立ち上げ，資料・販売促進などの市場導入準備等々，全ての部門にとって非常に忙しく，コマツが今まで活動を進めてきた「モノ作り改革」の成果を示す重要な年となります．

我々が研究・開発している建設機械は，世界中のさまざまな環境条件の中でいろいろな使われ方をされており，現在生産している車両というのは今まで作り込んできた経験・改良が織り込まれているノウハウの塊と言えます．変更したところには必ずと言っていいほど問題が発生し，開発の中での作り込みが不十分だと量産の立ち上がり時や，市場導入後に不具合が発生することになります．

試作車の品質確認の中で，いかにコマツの総合力を取り入れ，作り込んでいくかがキーとなってきます．そのためには，皆が内容を理解して議論に参加し意見を出し合えるように，問題点や課題を顕在化「見える化」することが大切です．不具合の内容は何か，どこを変更したのか，何が事実で横にらみ上はどうなっているのか，等々が的確に理解されれば，議論に参加している人の頭の中にはそれぞれの経験に基づくFMEA，FTAが浮かんできて自ずと良い結論が導き出されるものです．変更箇所の中でも，心配して皆で議論して慎重に進めてきた部分については品質確認も順調に進み，検討が抜けたところや思わぬところに問題が発生するというのは皆さんも数多く経験されていると思います．

世の中の進歩，変化のスピードはますます速くなっており，内容が高度化するために役割分担が進み，ますます「見える化」，コミュニケーションが重要となってきます．源流である開発部隊がきちんとした商品を開発して次のステップに渡すことが，スムーズな市場導入への第一歩であり，この一年気を引き締めて取り組んでいきたいと思います．